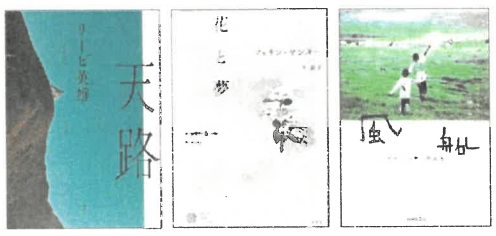
2024/09/14 15:21

ひもとく

チベット現代文学

チベット語研究者
海老原 志穂

死者たちが天にのぼる道を上代の日本語で「天路」というそうだ。同じ漢字の「天路」（中国語での発音はティエンルー）という言葉が中国では、チベットに向かう道を表すのに使われることがあり、有名な曲のタイトルとしても知られている。小説『天路』



信仰から小説へ「性」にも挑む

（リービ英雄著、講談社・1870円）は、亡き母の死を受け入れられない主人公が、友人の運転する車でチベットへと向かい、チベットの人々の死生観と出会う物語である。内容から、同書のタイトルには「天路」と「天路」が重なっているとわかる。いかにも英語を母語としつつ日本語で創作を行う「言語を横断する」作家らしい。小説中でも日本語、中国語、英語、そして、チベット語の音が行き来し、チベット文字が印象的に現れる。

仏典の文字

チベット文字は、仏の教えが書かれた仏典とともに伝播したインド系文字の一種である。日本では墓石の後ろに立てられる卒塔婆にみかけることのある梵字が同じ系統の文字だ。仏教があつく信仰されるチベットでは、長らくこの文字は仏典や聖者の伝記などを書きしるすだけで、一般の人々の喜びや悲しみを表現するためには使われてこなかった。「悟り」に近づく教えを説くチベット文字で、その指向性から大きくはずれた、俗人の心のうつろいを書くことには大きな障壁があったようだ。

寺院に奉納するためのチベット文字の経文が刻まれた石や石板を売る店。大きな石板に書かれているのはチベット語の六字真言「オン・マ・ニ・ペ・メ・フム」＝筆者撮影

『天路』でもガイドブックからの引用として以下のような一節が出てくる。

「世界の屋上で、かれらはきわめて高度な文字を作り上げた。一千年あまり、ひたすら生と死に思いをめぐらし、その文字をもって主に仏典をつづりつづけた。かれらは詩を書くこともあった。しかし、日本や中国のように小説を生み出すことはなかった」

この文章の最後に私は一言つけ加えたい。「少なくとも1970年代までは」と。

内なる声に

仏典の文字であるチベット文字で小説が書かれるようになったのは、文革後の80年代になってからのこと。文芸誌が創刊され、アイコン的な作家も現れた。当初は美文調で青春や恋愛を謳歌する若者たちを描き、彼らの自由をはばむ旧い慣習を批判した。その後、口語調の簡略的な文体も生み出され、内容や構成の幅も広がった。現在では、世界文学を吸収した世代の作家たちによってエンターテインメント性もそなえた多彩な作品が書かれている。

これらのチベット現代文学は日本語の翻訳でも楽しめるようになった。その中から近年刊行された2冊を紹介したい。1冊目はチベット女性作家による初の長編小説『花と夢』（ツェリン・ヤンキー著、星泉訳、春秋社・2640円）だ。チベット自治区の省都ラサで様々な理由から娼婦となり共同生活をする4人の女性たち。性的虐待や社会の偏見、病など運命に翻弄されつつも支え合い生きる彼女らのシスターフッドが描かれる。

2冊目は映画監督としても名高いペマ・ツェテンの短編小説集『風船 ペマ・ツェテン作品集』（ペマ・ツェテン著、大川謙作訳、春陽堂書店・2200円）。表題作の「風船」は、チベット牧畜民の性と生殖に焦点をあてる。舅が亡くなりその魂が家族として生まれ変わることを予言された直後に妊娠が判明した妻。すでに3人の幼い子供がおり堕胎の意志をつげるも、父親の転生をのぞむ夫からの強い反対を受ける。タイトルの風船の正体は膨らませたコンドームであり、性と生殖の分断を表象している。

この2冊が扱う「性」は、仏典の文字であるチベット文字が最も苦手としてきたテーマのひとつだ。「若い」文学であるチベット現代文学の挑戦はつづく。チベットの人々が手に入れた新たな表現方法による内なる声にぜひ耳をかたむけてほしい。

◇えびはら・しほ 79年生まれ。京都大学白眉センター特定助教。翻訳書に『チベット女性詩集 現代チベットを代表する7人・27選』など。

読書

https://book.asahi.com/

これが生活なのかしらん

ほの明るく照らす生への執念

小原 晩〈著〉

「これが生活なのかしらん♪」と語尾を上げて読んでいたけれど、もしかしたら大阪弁で「しらん！」と突き放しているのかもしれない。ご機嫌だったり、投げやりになったり、人生は忙しい。

本の中には、彼女の一人暮らしに始まり、弾むように楽しそうな友達との三人暮らし、実家暮らしでの家族との幼い頃の記憶に、心身ともに過酷な仕事での寮暮らし、そして恋人との二人暮らしとさまざまな時期がある。一冊を通して、彼女が人と関わり、人生を共にすることによる喜びと、生きることの苦しみが描かれている。細かい改行や軽いオノマトペがそこら中にちりばめられ、恐ろしくスイスイと読み進められる。どことなくふわふわとした読み心地で、全体的には柔らかい印象なのに、内容は時々重たく黒いものがあり、ふいに胸を突かれる。さまざまなことが起こるのが人生であり生活そのものだけど、彼女の筆致にかかれば、どんなことでもほの明るく、ほのおかしく照らされてしまう。

ことばを生き方 なのかしらん 小原晩著

中でも私が好きだったエッセイは「雑草とホウプ」という一編。まだ彼女が若く、自分がどこへ向かうべきか迷っていた頃の話だ。あるきっかけで立ち上がれなくなり、長い時間をかけて自分の中にあるホウプ＝希望と向き合い、今に繋がる決心をする。他のエッセイと変わらず、とても簡潔でやわらかい言葉なのに、彼女の中にある執念のような前を向く力が明るく表現されていて、少しだけ空気が違う。ひとりの人間の人生が立ち上がる、大事な始まりのタイミングが記録されている。

雰囲気は絵本のように牧歌的なのに、根底には「生きたい！」という強い芯が垣間見える。どんな時にも光る瞬間を見つけ出せる人の書く、まるで大人向けの絵本のようなエッセイ集だ。

植本 一子（写真家）

大和書房・1650円。23年10月刊。4刷1万7千部。著者は96年生まれ。「発売前から全国の独立系書店の方々が熱心に応援してくれた」と担当者。22年刊のエッセー集『ここで唐揚げ弁当を食べないでください』（自費出版）は1万部を突破。

売れてる本

週間ベスト10

丸善丸の内本店調べ フィクション部門〈8月29日～9月4日〉

①優れた聖地巡礼について＝背筋著 KADOKAWA
②サンショウウオの四十九日＝朝比奈秋著 新潮社
③名探偵の有害性＝桜庭一樹著 東京創元社
④成瀬は天下を取りにいく＝宮島未奈著 新潮社
⑤パリ山行＝松永K三蔵著 講談社
⑥口に関するアンケート＝背筋著 ポプラ社
⑦暗殺＝柴田哲孝著 幻冬舎
⑧少女マクベス＝降田天著 双葉社
⑨成瀬は借じた道をいく＝宮島未奈著 新潮社
⑩地面師たち ファイナル・ベッツ＝新庄耕著 集英社

●「岩波文庫」「岩波新書」「自然科学書」「世界」のメールマガジン配信中。詳しくはこちらを www.iwanami.co.jp/mm/ ●公式 X(twitter) アカウント @Iwanamishoten

『失われた時を求めて』名文選
◎プルーストの豊饒なことばのエッセンス
二〇世紀文学にそびえ立つ大長編のエッセンスを、岩波文庫版の訳者が選び抜いた名文選。生と死／愛と性／認識と忘却などのテーマ別に、どの頁にも、人間と社会の深層を描いたプルーストの珠玉のことばが煌めく。
マルセル・プルースト 吉川一義 編訳
978-4-00-022264 四六判 定価3080円

ケストナー没後50年 日記全訳を刊行！
ケストナーの戦争日記 1941－1945
エーリヒ・ケストナー／酒寄進一 訳
スヴェン・ハヌシェク 編 ウルリヒ・フォン・ビューロー、ジルケ・ベッカー 編集協力
戦時下に密かにつづられた日記。第三帝国の下劣さを批判し、戦争の日常を鋭く描いた記録から何を読み取ることができるだろうか。
978-4-00-061651-4 A5判 定価5060円

失われた時を求めて ブルースト 吉川一義 訳 【岩波文庫】全14冊
プルースト研究の第一人者による精確清新な全訳。当時の図版を多数収録。最終巻の総索引には全巻の人名等を網羅。
978-4-00-201275-9 ●全14冊セット 定価18,029円

岩波新書 宇沢弘文の本
宇沢弘文 没後10年 人間と地球のための経済学
自動車の社会的費用
文明の象徴である自動車は、市民の安全を脅かす存在でもある。利便性に溺れず権利と安全を守る経済学。
978-4-00-431017 定価902円
社会的共通資本
社会的共通資本とは、ゆたかな経済とすぐれた文化を可能にする未来へのビジョンだ。著者の思索の結晶。
978-4-00-430696-2 定価1056円
経済学の考え方
経済学とはなにか、経済学の考え方とはどういうものか。柔軟な精神と熱い心情で、平易明快に語る。
978-4-00-430533-3 定価1100円

岩波新書
戦争ミュージアム ―記憶の回路をつなぐ
梯 久美子
◎戦争を忘れない――いまと地続きの過去への旅
戦争を伝える、平和のための博物館へ。土地に身を置き、ものに触れ、人びとの声を聴く。足元の歴史から未来を思い描くために。
978-4-00-431202-1 定価1012円
好評重版
戦争を忘れないいまと地続きの過去への旅

進化し続ける社会学のこれからのスタンダード
岩波講座 社会学 全13巻
〔編集委員〕北田暁大・岸 政彦・筒井淳也 丸山里美・山根純佳
〔内容案内進呈〕
第6回配本 第10巻 家族・親密圏
筒井淳也・永田夏来・松木洋人 編
一九九〇年前後に大きな転換を迎えた日本の家族社会学は、どのように深化・発展してきたか。結婚の形、家庭内ジェンダー不平等、家父長制意識、親子関係、子育て、介護など、多彩な切り口と方法論に基づく論考を収録。
978-4-00-011459-9 A5判 定価3740円

「富田メモ」のスクープを放ったジャーナリストが描く決定版評伝！
比翼の象徴 明仁・美智子伝
井上 亮
〈全3冊〉 続刊 (下)平成の革命 （11月下旬発売予定）
(上)戦争と新生日本
戦前の「神の子」から敗戦後は「新生日本のホープ」へ。明仁皇太子は自身の運命に実存的な煩悶を抱く。
978-4-00-025555-5 四六判 定価3520円
(中)大衆の天皇制
正田美智子との「世紀の結婚」に国民は沸いた。だが、それは旧勢力の激しい反発を招くものだった――。
978-4-00-025562-2 四六判 定価3520円

思想 9月号 定価2640円
特集＝道元の思想
何 燕生／出口康夫／末木文美士 石井清純／頼住光子／R. シュタイネック S. ハイネ／R. ラウド／G. コプフ C. ウィッテルン／和田有希子
【思想の言葉】木村清孝
科学 9月号 定価1760円 電子版配信中
特集＝絶滅危惧種の再導入をめぐる動向と課題
保全ゲノミクス／ワンプランアプローチ／ライチョウ・タナゴ・陸産貝類・コウノトリ
テングザルの重層社会

出版案内 9月
岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 ●毎月の新刊の全容は、岩波ホームページ（www.iwanami.co.jp）または雑誌「図書」をご覧下さい。●お求めの出版物が書店の店頭にない場合は、その書店にご注文下さい。小社に直接ご注文の場合は、ブックオーダー係（04-2951-5032）、または岩波ホームページをご利用下さい。
図書 今月の主な執筆者 渡辺政隆／松居竜五／石川九楊 岡野八代／伏見操／大田美佐子 原田宗典／末永高康 ほか
9月号 毎月1日発行 A5判・本文64頁 購読料＝1年分1000円（税・送料込）
定期購読の申込先 ハガキまたは電話（04-2951-5033）で岩波書店「図書」購読係宛。もしくは岩波ホームページ（www.iwanami.co.jp/toeho/）をご利用下さい。

STAMP BOOKS 10代からの海外文学
あいだのわたし
ユリア・ラビノヴィチ 作 細井直子 訳
この国に、留まれるのか、送り返されるのか。家族とともに難民認定を待つ15歳のマディーナが日記帳につづる、奮闘の日々。
978-4-00-116429-9 四六判 定価2200円
好評既刊
僕たちは星屑でできている
マンジート・マン 作／長友恵子 訳 978-4-00-116426-8 四六判 定価2420円
死の森の犬たち
アンソニー・マゴーワン 作 尾崎愛子 訳
978-4-00-116427-5 四六判 定価2200円

ぼくらにできないことはない 絵本
宇宙船にのってやってきたぼくら。遠い星で、パパはどうしてるのかな。ふしぎな二人の希望の物語。
エーヴァ・リンドストロム 作 よこのなな 訳
〈対象〉4歳から
978-4-00-112710-2
A4判変型 定価1760円

● VTuberを総合的な"学問"へ
VTuber学
岡本 健・山野弘樹・吉川 慧 編著
忽ち重版
VTuberは、ネットとコンテンツが連綿と紡いできた文化・社会・産業的な蓄積の結節点にいる存在である。そこから見いだされる可能性や課題、多層的な問いについて考えるための視座を、気鋭の執筆者陣が提供する。
978-4-00-061653-9 A5判 定価3740円

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.